

< 報道発表資料 >

(経済同時)

令和 7 年 7 月 17 日

京都国際マンガミュージアム広報担当

京都市産業観光局クリエイティブ産業振興室

終戦 80 周年記念トークイベント & ミニ原画展

「夏とモノクローム ～日本映画黄金期の女性映画人～」

の開催

この度、京都国際マンガミュージアムでは、日本映画黄金期に活躍した女性映画人・和田夏十をモデルにしたマンガ作品「夏のモノクローム」(リイド社)の作者・永美太郎氏と映画史研究者の鷲谷花氏をお招きし、作品制作の裏話や 1950 年代の日本の映画業界などについてお話しいただくトークイベントを開催します。

【開催概要】

- 日時 令和 7 年 8 月 9 日 (土) 午後 2 時～4 時
- 場所 京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー 6
(〒604-0846 京都市中京区烏丸通御池上る)

- 内容

今年で戦後 80 年になります。日本は戦争によって都市が破壊され、国土は荒廃しました。映画業界はそうした戦後の荒廃からいち早く立ち上がり、復興の流れに乗って 1950 年代に黄金期を迎えることになります。男性中心だった日本の映画業界ですが、戦後は和田夏十のほか、水木洋子、田中澄江といった女性脚本家が活躍し、田中絹代が女性映画監督のはしりとなるなど、女性の進出も進みました。それには敗戦と戦後の民主主義が大きく影響しているのです。

このイベントでは、戦後に道を切り開いた女性映画人の群像を、和田夏十をモデルにしたマンガ作品「夏のモノクローム」の作者永美太郎と、映画史研究者の鷲谷花が読み解きます。イベント終了後、ショップでの書籍購入者を対象にサイン会を開催します。

- 出演

- ・永美太郎 (マンガ家)
- ・鷲谷花 (映画史・映像文化史研究者)

● 参加方法

事前申込不要（ただし、定員 30 名、先着順）

※当日午前 10 時より館内にてイベントの整理券を配布します。

- 料金 無料（ただし、会場御参加の場合はミュージアム入館料〔大人 1、200 円、中高生 400 円、小学生 200 円〕が別途必要。）

- 主催 京都国際マンガミュージアム、トーチ編集部

<参考>

- 永美太郎（ながみ・たろう）



マンガ家、1984 年兵庫生まれ。

京都造形芸術大学映像舞台芸術学科を卒業後、山田参助氏のアシスタントを経て、2017 年にトーチ web にて「エコール・ド・プラトーン」を連載。2023 年に「夏のモノクローム」の第一部を連載、現在第二部を執筆中。既刊に「エコール・ド・プラトーン」（リイド社、2019 年）、「夏のモノクローム」（リイド社、2024 年）がある。

- 鷺谷花（わしたに・はな）



映画史・映像文化史研究者、1974 年東京生まれ。

大阪国際児童文学振興財団特別専門員。映画史の研究の傍ら、幻燈の上映活動なども行っている。著作に「姫とホモソーシャル 半信半疑のフェミニズム映画批評」（青土社、2022 年）。翻訳ジル・ルポール著「ワンダーウーマンの秘密の歴史」（青土社、2019 年）。共編著「淡島千景：女優というプリズム」（青弓社、2009 年）などがある。

<関連企画>

「夏のモノクローム」ミニ原画展

本イベントに合わせて、永美太郎氏の「夏のモノクローム」の肉筆原画約 20 点を展示するミニ原画展を開催。

会期：2025 年 8 月 9 日（土）～26 日（火）

場所：京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー6

料金：無料（ただし、会場御参加の場合はミュージアム入館料〔大人 1、200 円、中高生 400 円、小学生 200 円〕が別途必要。）

<お問合せ先>

京都国際マンガミュージアム

電話：075-254-7414

<提供可能画像>

本展紹介にのみ使用可能な広報画像です。キャプションやクレジットの記載と共にご使用ください。使用希望の際は、お申し出いただきましたらメールでお送りいたします。



イベント用ビジュアル
©永美太郎／リイド社



「夏のモノクローム」単行本表紙
©永美太郎／リイド社